

## グローバル COE プログラム「インテリジェントセンシングのフロンティア」

／電気・電子工学系 教授 石田 誠

グローバル COE プログラムは、文部科学省において平成 14 年度から開始された「21 世紀 COE プログラム」のあと、その基本的な考え方を継承し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とする事業です。

COE(Centers of Excellence) とは、「世界最高水準の研究教育拠点」ということです。前の 21 世紀 COE プログラムで、豊橋技術科学大学の電子情報専攻は「インテリジェントヒューマンセンシング」というテーマで本年の 3 月までの 5 年間推進してきました。(全国の電子情報分野で 20 拠点。平成 14 年から 16 年に採用された全拠点数は、11 分野で 274 件。本学のもう 1 件は、「未来社会の生態恒常性工学」です。)

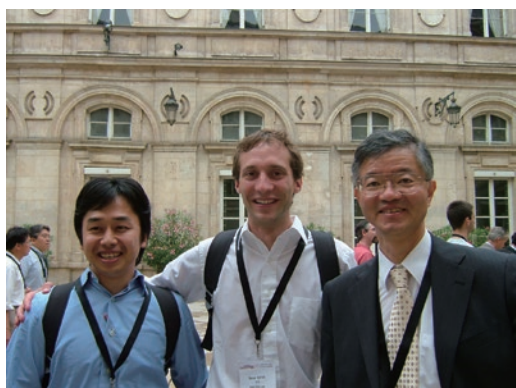


図1 フランス、リヨンにて



図2 ワーキングメンバー

今回のグローバル COE の採択数は、21 世紀 COE の半分になるということで、1 年前ぐらいからいろいろな噂が流れていましたが、実際は 12 月の末に公募があり、2 月中旬に申請書提出、3 月中旬に 1 次書類選考結果発表、その後外国人レフリー用の申請書提出、そして 5 月 17 日に東京で最終ヒアリングが行われました。審査委員 22 名の前で、西永学長の全体説明の後、本学の「インテリジェントセンシングのフロンティア」を説明し、その後いろいろな質問攻めに会いましたが、回答できたと思います。一緒にヒアリングに出席した澤田先生、中内先生、そして事務の小玉係長を含め昼食を取りましたが、一杯のビールのおいしかったことはいまでも鮮明に覚えています。結果は別として大役を果たした安堵感からです。最終的に、結果を知ったのは、6 月 14 日のメールで、丁度フランスのリヨンで開かれていたセンサ関係分野の最も大きな国際会議(1600 名参加者)にアジアのチェアとして参加していたときです(図 1)。正式発表は 15 日でしたが、学長とリーダーには前もって連絡が入りました。帰国後、記者会見を 18 日に学長と一緒に行いましたが、電子情報分野は、13 件(21 世紀 COE の半分の 10 拠点と新規 3 件を採用)と大変厳しいもので、東海地区は本学だけでした。小さい大学ながら、申請内容を何度何度も考え、議論し、発表用 PPT を練ったワーキングのメンバー(9 名 図 2)のチームワークの勝利といえますが、今後の運営と推進のためには専攻の教員、学生、そして事務側の全面的な協力と支援をお願いするしだいです。

テーマの「インテリジェントセンシングのフロンティア」ですが、これは各種センサなどを搭載した LSI のデザインからチップまで製造できる一連の設備を備えた世界的にもユニークな LSI 工場を有する本学ならではの特徴を生かした教育研究拠点をめざしています。将来の情報化社会を支えるセンシング分野を国際的にリードするフロンティアとして、従来のセンサ技術の延長でなく、生体情報、医療、環境、農業などの分野の先端的「知」を取り入れたセンシングを開拓するとともに国際性を備え、リーダー的即戦力となる「センシングアーキテクト」(高いレベルの仕様を決め、全体が見える研究者)の育成をおこなう世界的センシング研究活動拠点をめざしています(図 3)。そのために、博士課程学生へ 20 万円/月の支援(支給)など、人材育成に重点が置かれています。若い意欲ある多くの学生の皆さんが参加されることを期待しています。

### 3つのフロンティア形成



図 3